

あばれ天竜 明善と りゆう



郷土の偉人・金原明善物語

編集●浜松市東区役所
〒435-8686 浜松市東区流通元町20-3
電話053-424-0113

協力●明善記念館
〒435-0012 浜松市東区安間町35
電話053-421-0550

発行●平成20年3月



ときは江戸時代の
終わりごろです。

(二)

「おーい、堤ぼうが切れたぞー」

「みんな早くにげろー」

きけんを知らせるどなり声や悲鳴に

村じゅうが大きわぎです。

堤ぼうの切れたところから、
だく流が

くるつたように流れこみ、
家も田んぼもみるみるうちに
のまれていきます。

にげおくれた人たちや

家ちくも流されていくのに
だれも助けることが
できません。



(二)

「この川はいったい
いつまでわしらを
苦しめるだあ」

「家も畠も、みーんな
流されちやつたあ」

大雨がふるたびに、
何度も大こう水に
苦しめられてきた人々は

いつしかこの川を

あばれ天竜と
よぶようにな
なりました。

このあたりを

治めていた

とのさまも、役人も、

川がしづまるのを

まつだけで、

こう水をふせぐ方法を

真けんに考える人など

だれ一人として

いませんでした。



(三)

そんなときです。
人々の苦しんでいるすがたを
もうこれ以上見ていられないと、
一人の男が立ち上がりました。

若者の名前は金原弥一郎。
後の金原明善です。
安間村（今の浜松市東区安間町）に
生まれた明善が
この村を救うただ一つの手だん、
それはだれも手をつけたことのない
治水事業（水の流れをよくし、水害をふせぐこと）
を行うことだと考え、
先祖代々の金原家のざいさんを
その費用にあてる決心しました。



(四)

ときは明治になりました。

あばれ天竜のひがいに頭をかかえていた政府は、みずからの財産を差し出そうとする明善に心を動かされ、ついに堤ぼう工事のきよかをあたえました。

ようやく始まつた大がかりな堤ぼう工事。しかし、その間にもこう水はたびたびおこり、そのたびに堤ぼうはこわれます。

(くずれた堤ぼうを直すだけではだめなののかあ：)

あきらめかけた人々を前に、明善はふと大事なことに気づきます。

